

新世紀エヴァンゲリオン ンDESTINY

如月 靈

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

碓シンジは、ブラックホールに吸い込まれ着いた先は、SEEDDESTINYの世界だった。シンジは、デュランダル家に世話になり、ザフト軍に入隊した。その後ミネルバ艦長になる。その後戦いの場に向かっているとちゅうで再びブラックホールにミネルバごと吸い込まれてもとの世界に帰って来たシンジは、元の世界で特務機関ZAFFの総司令官として使徒を倒す！

新世紀エヴァンゲリオンと機動戦士ガンダムSEEDDESTINYのクロスオーバー作品です。

下手なのはご勘弁を！

目次

プロローグ	1
シンジの帰還とNERV本部	6
使徒襲来と殲滅	10
NERVとシンジ	14
市立第壱中学校	19
ZAFTの初勝利	22
NERVとZAFTの会談	25
ゼーレの解体	28

プロローグ

碓シンジは、一度死んで更に過去の自分に転生した。しかし前世とちがい近所に惣流家がありアスカとは、幼馴染みだった。ある日アスカは、ドイツに引越すことになった。シンジは、「いつかまた会おうよ、またねアスカ!」「うん、ぜったいよシンジ!」と言つてアスカは、ドイツに引越した。シンジは、転生する際にシンジは、チート能力をもらった。それは、全てに置いて完璧にこなす才能と、ATフィールドを操作できるようにすること、次元の操作だった。ゲンドウに捨てられたときシンジは、叔父の家は、行かず京都の碓家に行きお祖父さんとそこで暮らし始めた。そしてその3ヶ月後足元に黒い穴が出てきてシンジは、「うわあ!なんなんだよこれは!アスカ!父さん!」と言いながら落ちた。

碓家は、シンジのことを探したが見つからなかった。そのためシンジの事を隠し通した。



「ん、ん、どい？」

シンジは、誰かの家の中で目覚めた。そこには、一人の男性がいた。その男性は、
「私はギルバートデュランダルだ、ここは、プラントにある私の家だよ。君は私の家の前
で倒れているところをみつつけてね。私の家の中に運んだんだ。ところで君の名前は？」

と聞いてきた。シンジは、

「僕は、…シンジ、碓シンジ…です。」

と途切れ途切れに言った。ギルバートは、

「では、シンジ君の家まで送ろう、家はどこだい？」

と聞く。シンジは、悲しそうな顔をして

「僕は、この世界の外の世界から来たからないよ。」

と言った。ギルバートは、驚いた顔をしたがすぐに元に戻って

「なら、私の家で暮らすかい？」

と言った。シンジは、パアと笑顔になると嬉しそうに

「うん！」

と言い、頷いた。そして碓シンジは、デュランダルの家に世話になるようになった。

そしてその3年後シンジは、チート能力で士官学校を総合1位で卒業しザフト軍赤服として入隊した。更に1年後、偶然遭遇した襲撃事件に会い、所属艦の艦長と副艦長艦が戦死し、そして残存クルーのみで艦のの指揮を取り襲撃犯を撃墜したこと功績で白服に昇進し、フェイス隊所属になり新造艦ミネルバの艦長に就任した。シンジは、デュランダルより新型機のデイズニーガンダムネオのパイロットも任されていた。

C. E. 73 10. 2 アーモリーワンにて地球連合の襲撃を受け、インパルスを出した。しかし、インパルスのエネルギーが危険域になった。シンジは、ミネルバの発進準備の指揮を取り始めた。

「インパルスまで失う訳には、いけない！ミネルバを発進させる！」と言った。副艦長のアーサーが「し、しかし、碇艦長……」と心配そうに言う。そこにシンジは、「インパルスを奪われては、それこそザフトは終わりだ。」と言い、ギルバートに「よろしいですね議長。」と言った。ギルバートは、「構わない。インパルスまで奪われては、ザフト終わりだ。」と返してきた。シンジは、艦の発進シークエンスの指揮を取る「ミネルバ発進シークエンス開始。ミネルバ、発進ゲートに移動！発進ゲート内減圧開始！」と言った。ミネルバのオペレーターメイリンホークは、「発進ゲート内減圧完了！いつでも行けます！」と言った。シンジは、内線を取り通信をかけた『全要員に伝達。現時点を以て、LHM-BB01、ミネルバの識別コードは有効となった。』と言った。シンジは、「発進ゲートオープン！ミネルバ、発進！」と叫びミネルバを発進させた。そしてその4カ月にミネルバ所属のレイザバレルにレジエンドガンダムが受領された。そして次の戦いの場に向かっていく際に謎のブラックホールにミネルバは、吸い込まれた。

シンジの帰還とNERV本部

シンジは、目覚めるとすぐに「アークサー、情報収集急いで！ミネルバ発進！」と指揮を取った。そしてシンジは、情報から元の世界だとわかり、京都碓家上空に着くと次元操作をしてミネルバを空の空間に送った。その空間にいと時間が止まって次に出した時に一瞬に感じられるという物だ。そして碓家に入り、お祖父さんに挨拶をした。お祖父さんは、「よお、帰って来た。」と言ってくれた。その数カ月後お祖父さんは、病で亡くなった。碓家をシンジが継ぎ更に巨大な企業にしていた。そしてシンジは、特務機関Z A F Tを設立し、来るべき使徒の為に準備を取った。その準備とは、対使徒用にモバイルスーツの武器を製作することだ。シンジは、A Tフィールドに対抗できるフィールドを発生させるコアを開発し、M Sの武器と機体に搭載した。しかし、3機しかできなかった。そのパイロットには、シンジとレイとルナマリアがなった。特務機関Z A F Tの基地は、第三新東京市の近くに存在している。それは、NERVのジオフロントから、3キロ離れた所だ。建物は地下にあり、何枚もの特殊装甲に守られている。その発令所は、NERVの発令所と酷似している。Z A F Tの総司令は、碓シンジが勤めている。また、副司令はアークサーが勤めている。そして運命の日がやって来たのだ。つまり

「やはり、戦闘機を出すべきだったかな。」とシンジは、嘆いている。それはとうとうとNERVの職員が迎えに来ると書いてあるのに2時間経つても来ないからだ。使徒が来て緊急事態宣言が発令されりとシンジは、「仕方ないか」と愚痴りながら電話をZAFTの基地にかけた。そして数分後戦闘機が到着した。その戦闘機のコックピットの後ろに入ってNERVに向かっていく。シンジは、ミサトに電話をかけた『葛城ミサトさんですね。僕は、碓シンジです。NERVの戦闘機着艦場開けといてください。』と言つて通信を切った。ミサトは、リツコに電話をかけて戦闘機着艦場開けておくように連絡をした。そしてシンジは、NERVの戦闘機着艦場に着艦した。リツコは、「貴方が碓シン

ジ博士ですね？私は、赤城リツコです。」と言って来た。シンジは、「はい、碇シンジです。」と言った。リツコ「シンジ博士、ついてきてください。」と言った。シンジは、「はい。」と言ってリツコについていった。

使徒襲来と殲滅

シンジは、リツコに連れられ暗闇のハンガーのような所に来た。シンジは、内心（そう言えばここで父さんに会ったんだっけ）と思っっている。そして、光が着いた。するとそこには、エヴァンゲリオン初号機がいた。リツコが初号機の説明が終わるとゲンドウが「久しぶりだな、…シンジ…」と言っただけで表れた。シンジは、「やあ、父さん。」と返しておいた。ゲンドウは、「ふっ…出撃…」と言った。昔と同じだ。するとリツコが、「しかし司令！レイでさえシンクロするのに7ヶ月間もかかったんですよ！素人のシンジ君には、無理です！」と隣から言った。しかし、ゲンドウはそれを全面無視し、「シンジ、乗れ！でなければ帰れれ！」と言った。シンジは、仕方なさそうに「わかったよ、だけど乗るのは今回だけだからね。」と言った。ゲンドウは、「…わかった」と言った。シンジは、それを確認しリツコの方を向いた。「赤城博士、操作系の説明を。」と言った。リツコは、「え、ええこつちに来て。」と言っただけで説明をうけた。シンジは、（まあ、わかってるんだけどな）と思っただけでいいとかがいらないとか。

すると

「冷却終了！ケイジ内すべてドッキング位置、

エントリープラグパイロットコックピット位置に着きました！」

「了解！エントリープラグ挿入！プラグ固定終了！」と報告が飛ぶ。リツコは、「第一次接続開始！エントリープラグ注水！」と指示を飛ばす。（知ってるけど知らないふりしとかなきやな）と思いシンジは、「なっ、なんなんですかこれは！」と言った。リツコは、「それをLCLといって肺に取り込むと肺が直接酸素を得てくれるの」と言った。シンジは、「わっ、わかりました。」と言って肺の中にLCLを取り込んだ。（なんとか騙せたな）とシンジは、少し安堵した。そして「主電源接続、全回路動力伝達、起動スタート！」「神経接続異常なし！初期コンタクト全て問題なし！双方向回線開きます！」とオペレーターが言う。リツコは、出てきたシンジのシンクロ率に驚いた。シンクロ率93.4%を叩き出していたのだ。リツコが、「いけるわ」と言って振り返った。そこには、NERV作戦部長のミサトがいた。ミサトは、「エヴァンゲリオン初号機！発進！」と叫んだ。するとエヴァンゲリオン初号機は、カタパルトから地上に射出された。初号機が

リフトから外れた。そしてミサトは、「シンジ君！今は歩くことだけを考えて！」と通信をいれた。シンジは、「葛城さん！逃げ遅れた人がいます！至急助けてください！」と叫んだ。ミサトは、その人を保安部が助けると「逃げ遅れた人の救助は、完了したわ！」と言った。（二回目なんだからすぐに終わらせる！）と思いながらシンジは、プログレシツブナイフを装備し、使徒に向かつて走り出した。シンジは、プログレシツブナイフを切り裂き使徒のコアにプログレシツブナイフを突き刺した。すると使徒は活動を停止した。NERV本部発令所の面々は、驚いて固まっていたがシンジが「ミサトさん、どこに撤退すればいいですか？」と通信をいれたことにより現実に取り戻された。ミサトは、ハッとして「シ、シンジ君、初号機は、ポイント第136から撤退して。」と言った。シンジは、「了解」と言って通信を切った。ミサトは、シンジ君の元に向かった。

NERVとシンジ

着替えたシンジは、ゲンドウのいる司令室にミサトと向かっている。ミサトは、「シンジ君、どうしてあそこまで動けるの？」と聞いた。シンジは、「そりゃ軍の人に鍛えてもらったからね。」と言った。（まあ、自分が軍人だからです。なんて言えないからな。）と思っているとシンジとミサトは、司令室の前に着いた。ミサトは、「碇司令！葛城一尉であります！サードチルドレンを連れて参りました！」と言うと中から「入れ」と声が聞こえた。シンジとミサトは、司令室に入っていくソファアに座る。ゲンドウのそばにいる冬月コウゾウは、「シンジ君には、第三新東京市にいてもらいたい」と言ってきた。シンジは、「わかりました。しかし、エヴァには、乗りませんからね」と言う。ゲンドウが、「構わない」と言った。シンジは、それを聞くと司令室を出ていった。シンジはミサトに、「葛城一尉、戦闘機着艦場開けといてくれますか？あと住む場所は、自分で確保してあります。」と言った。ミサトは、「わかったわ、開けておくわ」と言ってくれた。シンジは、NERV本部に着いた戦闘機に乗り込み帰っていった。その中戦闘機は、ステルス機能を発動してZAFТ本部に向かっていた。その頃NERV本部では、サードチルドレンを見失ったとして大騒ぎしていたとかいかなかったとか。

シンジは、本部に着くと白服に着替え発令所に行き「Z A F T職員の皆様！今回はN E R Vに勝利を渡した！しかし、次からは私がこちらにいる！もう勝利をN E R Vには、渡さんぞ！」と宣言をした。するとZ A F T職員は、「二はい！碇司令！二」と言ってくれた。その後シンジは、第三新東京市の中のマンションに向かい、就寝した。

次の日シンジは、市立第壱中学校に通うことになり、アーサーに学校に送ってもらった。そして職員室に入ってしまった。その後シンジは、先生に連れられて2年A組の前に

来ていた。先生に呼ばれシンジは、教室に入ってしまった。そしてシンジは、「碓シンジです。第二中学から転校してきました。趣味は料理です。よろしくお願いします。」と軽い自己紹介をした。するとクラスの人が騒ぎ出した。ごく少数の人物達は、クラスの騒ぎに加担せずにシンジは、じつと見ていた。

シンジが1限目の授業中にパソコンに届いた一通のメールをシンジは、開いた。そこには、『碓君は、昨日のロボットのパイロットY/N』と書いてあった。シンジは、（まあいいか。）と思つてYESを押した。すると次の瞬間クラスの皆が立ち上がりシンジの方を向いた。シンジは、「授業中だよ。今は、授業に、集中しよう。」と言つてクラスの

騒ぎを沈めた。授業が終わるとある少年に体育館裏に呼び出された。

市立第壱中学校

体育館裏に呼び出されたシンジは、鈴原トウジに、「ありがとな、転校生。お陰で助かったわ。」と言われた。

く回想く

トウジ「なあ、あのパイロットって誰なんや？ワシお礼言いたいんやけど。」

保安部「パイロットは、機密で言えないけどいつかわかった時に言ったらどうだい？」

トウジ「せやな、そうするわ」

く回想く

あそこにしたのがトウジ達で、その時に保安部に言われたらしい。トウジが、お礼を言った後にシンジは、「だけど、もう僕は乗らないけどね。」と付け足した。トウジとシンスケ「「なんでなんや！」」と言って突つかかてきた。シンジは、冷静に「その時に別のところで戦うからだよ。」と言った。トウジ達は、「別のところで、どこや？」と聞いてくるがシンジは、「ナイショだよ。機密だもん。」と返してその場を撤退して行った。

その3週間後のある日の授業中にシンジの携帯が鳴った。それをシンジは、電話に出た。電話の相手は、アーサーで「艦長！使徒が第三に來てます！今、車で着きましたから降りてきてください！」と言つてきた。電話を切るとシンジは、「先生、急用が來たので失礼します。」と言つて窓を開けて飛び降りた。クラスメイトは、「「「え〜」」「「「と言つて窓から覗いた。そこには、車に乗つて走り出していくシンジがいた。シンジが走り出して数十分後に非常事態宣言が発令された。その頃シンジは、Z A F Tの基地について白服に着替えてミネルバに乗り、第三新東京市の上空に向かった。N E R V本部ではエヴァに乗るパイロットがいけないというのに国連からエヴァの出撃要請が來ていたがパイロットがいけないため皆、戸惑つてゐる。そこにもうひとつの特務機関Z A F Tから指揮権の引き渡しの通信が入つてきた。ゲンドウは「静かにしろ！」と一喝し、黙らせて通信をメインモニターで開いた。そこには、特務機関Z A F Tの白い制服をきて帽子をかぶつてフェイス隊のバッチリを着けたシンジが映つていた。N E R Vの面々が驚いた顔をした。ミサトは、「なんであなたがそこに居るの！シンジ君！」と言つた。シンジは、『改めて自己紹介をしましょう。特務機関Z A F Tの総司令兼ミネルバ艦長の碇シンジ少将であります。今日は指揮権を頂きました。』と言つた。ミサトは、「そんなこと出来るわけじゃないじゃない！」と言つた。サードチルドレンの碇シンジがもうひとつの特務機関のトップとわかりパイロットがいけないN E R Vには、使徒に対抗

する力は、なくゲンドウが「構わない」と言った。シンジは、「感謝します。今回は、Z A F T が勝利させて貰うね。」と言って通信を切った。N E R V の職員は、それを黙っているしかなかった。

Z A F T の初勝利

通信を切るとシンジは、「指揮権がこちらに移った！総員、第一種戦闘配置！ルナマリアとレイは発進準備をしてモビルスーツ内で待機！さあ、勝ちに行きましょうか」と言った。ミネルバは、使徒に向かって進んで行った。そしてNERVのリツコから『シンジ博士！使徒には、ATフィールドがあるのに無茶です！』通信が入った。シンジは、「大丈夫です。赤城博士、見ていてください。」と言って通信を切った。そして「ミサイル発射管一番から四番にパルジファル装填！てえく！」と言った。パルジファールは、使徒のビームに打ち落とされた。その破片が山に落ちた。シンジは、ハッ（あそこはたしかトウジとシンスケがいたところ！）と思い出した。すぐに山の辺りを確認した。やはりトウジとシンスケは、そこにいた。シンジは、「ルナマリア！2時の方向の山中に逃げ遅れた人を発見した！発進して彼らを回収し帰還せよ！」と言った。ルナマリアは、「了解！ルナマリアホーク、発進するわよ！」と発進して行った。シンジは、ルナマリアが発進したのを確認すると「ミサイル発射管一番から四番パルジファル装填！」と言った。装填が完了し「ミサイル発射管一番、二番パルジファール、て撃て！」と指示を出す。しかしミサイルはやはり使徒に落とされた。だがシンジは、すかさず「三番、四

番撃て！」と指示を飛ばした。使徒は、A Tフィールドを張ったが破られミサイルは、二本とも使徒のコアに直撃した。そして使徒のコアが割れて使徒は、活動を停止した。N E R Vでは、「通常兵器で使徒を倒すなんて……」と嘆いていた。その後ルナリアのセイバーガンダムが着艦した。シンジは、「第一種戦闘配置解除！全艦180。回頭！基地に帰還する！」と言った。

その数分後に艦橋の扉が開きルナマリアがトウジとシンスケを連れて入ってきた。シンジは、立ち上がり三人を向くと「やあ、二人とも。二人は、学校に連絡をしておいたからね。」と言った。トウジとシンスケは、驚いた顔をして「どうしてシンジ（転校生）がここにおるんや！」と言った。シンジは、冷静に「そりや僕が特務機関Z A F T 総司令官でこの艦の艦長だからだよ。」と言うと二人が驚いた顔をした。トウジとシンスケにシンジは、「この事は、クラスの人には、ナイシヨにしてね？」と言った。トウジとシンスケは、「わかった（わかったで）」と返してきた。ミネルバが基地に着くとシンジは、アーサーに車を出してもらって学校に二人を送り届けた。シンジは、家に向かった。

NERV本部に着いたシンジとアークは、ミサトに連れられて司令室に入っていた。入ると冬月とゲンドウの二人が敬礼をして「特務機関ZAF-T総司令碓シンジ少将です。」「特務機関ZAF-T副司令アークトライン大佐です。」と言った。すると冬月がソファから立ち上がり「私は特務機関NERV副司令の冬月コウゾウ、こつちが碓少将の父で碓ゲンドウです。」と言った。三人がソファに座るとゲンドウが「シンジ、なぜZAF-Tの司令などやっている。」と言つて来た。シンジは、「それは、僕がZAF-Tを国連に許可を取つて作ったからだよ。」と言う。すると冬月が「どうやって国連に知り合いが居るのかね。」と聞く。「それは、僕が碓財閥総帥という役職柄いろいろと知り合いてて博士号を持つてて、コロニー計画の発案者だからかな。」と言った。二人が驚いている。それもそのはず碓財閥は、今や世界一位の企業でコロニー計画というとセカンドインパクトで衰退した地球から宇宙に移住するという壮大な計画を作ったのがシンジだということからだ。驚いてる二人にシンジは、「それでは、本題に入りましょうか。」と言つて現実に引き戻された。すると冬月が「シンジ少将は、いったいZAF-Tでどうしたいんですか？」とシンジに聞いた。シンジは、「ゼーレの解体とゼーレの目指している人類保管計画とサードインパクトを阻止することと人類を宇宙に上げてセカンドインパクト

ト前の暮らしを復元すること」と答える。「どこでそれを…しかしどのようにゼーレを解体するんだ？」と冬月は聞くシンジは、「まあ、楽しみにしててください。それよりもZAFＴは使徒殲滅をNERVと協力して行って行きたいと思います。ゼーレを解体した暁には、母さんをサルベージもしますよ。だから、それまでは、ゼーレには、黙っていてね。あとNERV職員への口止めとゼーレの人類保管計画の会話をこれに録音と録画してきてね。」と言つて小型カメラと小型のマイクを渡した。するとゲンドウは少し動揺したがすぐに冷静になり「ああ、わかった。」と答えてカメラとマイクを浮けると。シンジは、カメラとマイクを渡すと「それでは、またこちらから連絡をしますよ。」言い司令室を出た。アーサーもシンジの後について出ていった。シンジが帰ったあと冬月とゲンドウは、「碇、ユイ君が戻ってくるかも知れんな。」「ああ…冬月、NERV職員に口止めをしておいてくれ。あと、ゼーレには、言うなよ?」「わかっておる。」と会話が續いていた。

ゼーレの解体

NERVとの会談が終わってから一週間後にゲンドウからゼーレの人類保管計画についての会議の映像が送られてきた。その翌日シンジは、Z A F Tの総力を上げてゼーレ幹部の居場所に構成員を向かわせて待機させていた。シンジの立てた計画とは、国会中継されている国連の会議の最中にゼーレの悪事を世界に示す

←

それと同時にZ A F Tの構成員によるゼーレ幹部の拿捕

というものだ。シンジは、国連の会議場に着くと会議場の扉を開けて中に入り、壇上に立つと

「閉会するな……この席を借りたい！ 議会の方と、このテレビを見ている全ての方に、突然の無礼を許して頂きたい。私は特務機関Z A F T総司令の碇シンジ少将であります。

私はこの場を借りて、ゼーレの企みを世界の方々に知って頂くためにここにいます。

もちろん、Z A F Tの司令ではなく一人の人間としてである。ゼーレとは、世界を裏から支配しているもの達のことです。セカンドインパクトには、ゼーレの幹部が関わっている可能性が高い！ また、人類保管計画というものをゼーレは実行しようとし

ている！これは、セカンドインパクトの次のサードインパクトを起こし、人類の魂をひとつに集め管理するといふものだ！これは神にのみ許された権利である！しかしゼーレは、これを起こし、人々を世界から消そうというのだ！現在ゼーレがNERVを脅し、我が物にする事実、他のどんなテロリストのやり方より悪質である！これを許せるのか！否、断じて否である！ゼーレ幹部は、Z A F Tが総力を上げて全員捕獲しました。その幹部は、この人物達です。そして人類保管計画を実行しようとしているのはこれです。わかります。」と言つて写真をスクリーンに出し、映像を流す。そして

「テレビを御覧の世界の方々はお分かりになる筈だ。これがゼーレなのです。ゼーレとは、この世界より排除しなければいけないものだ！あとは、皆様のご決断次第である。私は、この悪事をしたゼーレ幹部を無期懲役になるように願つている。私はこれで失礼しよう。」と続けた。シンジは、言い終わると壇上から降りて一礼し、国連の会議場後にした。その後Z A F Tは、国連の会議場にゼーレ幹部を全員預けてZ A F Tの基地に帰還した。

その数日後ゼーレの幹部は全員が無期懲役になった。ゼーレ幹部の判決から1ヶ月後にNERVは全てZ A F Tに吸収され特務機関Z A F Tに変わった。ゲンドウと冬月は、宇宙コロニーに作った特務機関Z A F T N E R V支部の司令と副司令となった。そしてNERV支部にシンジは、M A G iシステムを移した。その他の支部は、司

令と副司令を全て取っ替えた。その後エヴァンゲリオン初号機の中から碓ユイをサルベージし、さらにドイツにサルベージの計画を送り、エヴァンゲリオン式号機からアスカの母、惣流・キョウコ・ツエッペリンのサルベージもした。今は、二人とも元気になっている。シンジはゼーレを解体して間もなくしてエヴァンゲリオン三号機以外を地下に集めて封印した。三号機が封印されなかったのは、使徒に寄生されていることが分かり、跡形もなく消し去るためだった。そしてエヴァンゲリオンの変わりにシンジは、使徒に対抗できる核エンジン搭載型MS運用艦のラーカラム級戦艦と量産型MSを、2機ずつ各支部に配備した。ドイツ支部には、アスカ専用「イージスガンダム」と量産型3機を配備し、NERV支部には、核エンジン搭載型MS運用艦のイズモ級戦艦一番艦「クサナギ」と量産型MSを3機と「ジグー」配備した。そしてZAFТ本部は、前の場所を破棄して埋め立てて元NERV本部に移った。そこには、前のZAFТ本部から移したコンピュータのヴェーダがある。そして本部には、核エンジン搭載型MS運用艦のミネルバと「セイバーガンダム」「レジェンドガンダム」「ティステイニーガンダムネオ」「バスターガンダム」「デュエルガンダム」が配備され、次の使徒対策を立てていた。